

お盆の入りだ。もう実家でひっくりと骨休みしている「帰省組」もおられよう。東日本大震災の影響だろうか、このお盆には、実家に帰省したいという人が増えているそうだ。だが、都会では人との絆を断たれ、この夏を孤独に過ごす人も少なくない。地方でも「無縁社会」は深刻化している。ことさら「縁」を感じるお盆を前に、「心つなぎ」を模索し続ける眞人を訪ねた。（編集委員・東 寛）

(編集委員・東 寛)

深刻化する「無縁社会」

「体の調子は大丈夫ですか」。30度を超すような猛暑の夜だ。路上で横になつている人たちにひざまずき、顔を近づけて声を掛ける。

「暑いのに、あのおじさんは厚着していたでしょ。熱中症になると自分

普段は立教大学、社会福祉を教える研究者だ。みそ汁や麦茶、あめ玉などを携え、路上で寝ている人たちに差し出す。それを見ただけで「おう来たな」と待ちかねたようになるという。手を振り、みそ汁を断り出す人も多い。また会つと喜ぶ人もいる。そんなときは「困つたら、いつでもいれば、まだ路上生活の電話ください」と無料電話相談のチラシをそっと置いていく。13年も続けていると、鈴木さんの顔を見ただけで「おう来たな」と待ちかねたように話をするという。

A black and white portrait of a woman with short, dark hair, smiling. She is wearing a dark top. The photo is set within an oval frame.

の孤立問題は、いくつも解決できるものもある。切なのは「お互いさま」。近所へのあいさつが地域の絆をどうするか、気ついてほしい。

らおどもわいわいと集まり、にぎやかですよ。いまは「ハイコ」ティカフェ全国連絡会の共同代表をさせてもらつていますが、こんな世代交流の地域の茶の間がもっとと全国に広がるよう、お手伝いしていきたいです。

3日(土)

支
援
組
織
木
鈴
さん

路上訪問で糸紡ぐ

A black and white photograph showing a group of approximately ten students in a classroom setting. They are all focused on a large, detailed map or chart spread out on a table in front of them. The students are dressed in casual attire, including t-shirts and hoodies. The room has a plain wall in the background.

駅地下道で路上生活者に麦茶を差し出し、ひざまずいて要望や不満に耳を傾ける「スープの会」の鈴木さん（左から2人目）らボランティア=6日夜、東京都新宿区

しまう気弱な人もいる
「どんな状況でも一人で
はない。孤立していない
と思ってもらいたい」とが
私たちの活動の原点でし
ようか」と鈴木さん。

地で働いた。崩れた家にしている。赤紙が張られていく。「そ
んな家の人が『『苦勞』』って栄養ドリンクく
れたんだぜ。うれしかつたなあ。それなのに自分
は失職してホームレスになっちゃつたけどね」
路上訪問はその恩返し？ 「天涯孤独じゃさ
しい。みんなが心でつながりたい。家族のようなく
ら、少子高齢化が進む新居場所がほしいんだよ」。渴などの地方都市でも急
いまは介護士を目指して速に高まっています」。勉強中だが、親類がいる昆布山さんは汗だくでみ
北海道には、まだ帰省す。そ汁をコップに注いでいる気にはならない。

問題は、いろいろ
解決できるもので
どもわいわいと集まり、にぎ
やかですよ。いまは「コミコ」
は「お互いさま」
所へのあいさつや
地域の絆をどんな
ティカフェ全国連絡会の共同
代表をさせてもらっていますが、
こんな世代交流の地域の茶の間
気ついでほしい
がもつと全国に広がるよう、お
手伝っていただきたいです。

高一

お盆に里帰りする方も多いでしょう。もし両親が高齢卅歳とか、一人暮らしならば、ぜひ隣近所に一声掛けてもらいたいんです。年とんども、おれの一言が、親が万一のや病気になつたとき、どれだけ助けることか。

私は親の介護で21年前に新潟市で住民参加型の介護サービス「まごころヘルプ」を立ち上げました。活動が発展し、いまは専設型地方公的介護事業者として、このまごころヘルプを運営する。このまごころヘルプは、地域の高齢者や障害者に対する支援活動を主とした事業である。このまごころヘルプは、地域の高齢者や障害者に対する支援活動を主とした事業である。

卷之六

2011年8月13日(土)